



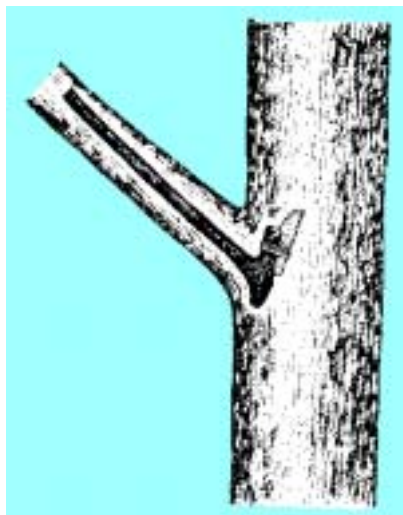
## ハンマーの柄 材質

一昨年(2001年)4月に三条でナイフづくりを岩崎重義師匠に教わった時のことです。「師匠、このハンマーの柄は桜ですか?」私、「桜の自然木が柔らかくって疲れ知らず。樫は手に響く。」そう言われました。それは、ちょっと太めの桜の自然木で、裏山で切って来られたものでした。ハンマーの柄は用途ごとに、硬さやしなり具合の適切なものを用いているのです。私はハンマーの柄は樫だと思いこんでいました。そこで調べてみると、現在やはり一般的なのは本樫です。特徴は、堅い、強度あり。硬く、耐久性もよい。乾燥、加工が困難、高価である。用途毎では、ハンマーが本樫。ナタが本樫。猫爪鉤(かぎ)も本樫。砂糖鉤が朴・本樫。鎌柄が朴(ほお)材。立て鎌がラミン材(南洋材)でした。朴の特徴は、汗を吸う、肌触りが良い、加工性が良く、乾燥も容易。比較的曲がりがおおい。

相豊ハンマーさんのホームページには以下の木材も使うと書いてありました。  
 ・うつき ・うしろろし ・樫 ・榊 ・ぐみ ・つげ ・桜 ・梅 ・ヒッコリー  
 どんな材料なのでしょうね。

又、昔はどんな材料を使っていたのでしょうか。

古代日本の知恵と技術(木質遺物にみる技術と生活の知恵 嶋倉巳三郎)によると、遺跡から発掘された柄の調査結果は以下の表のようになっています。やはり樫類が多く、次にヤブツバキやサカキなどです。



用途	樹種	遺跡調査例	他者調査例
石斧柄	カヤ	御山千軒	篠束 山木
	モミ	恩智	
	クヌギ	板付	
	シイノキ	鳥浜	
	シラカシ		
	カシ類	鳥浜、山賀、菜畑	
	シロダモ		
	ヤブツバキ	鳥浜、布勢	
	サカキ	鳥浜、布勢、唐津	
	ユズリハ	鳥浜	
カエデ	鳥浜		
センダン?	鳥浜		
斧柄	マンサク		登呂、山木
鉄斧柄	サカキ	和爾(わに)	

### 参考図書

古代日本の知恵と技術 森 浩一 編 大阪書籍 1983年

むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/>

e-meil [ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)



何でもお気軽にお尋ねください!!